

- 1 単元名 「We like our town. ～ようこそ, 新本へ～」  
 教材名 『We can!2』 Unit 4 「I like my town.」 自分たちの町・地域

## 2 単元の目標

- 地域にどのような施設があるのか, また欲しいのか, さらに地域のよさを聞いたり言ったりすることができる。 (知識・技能)
- 地域のよさや課題などについて自分の考えや気持ちを伝え合ったり, 地域のよさや願いについて例を参考に語順を意識しながら書いたりする。 (思考力・判断力・表現力)
- 地域のよさなどについて, 伝え合おうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・ 地域にどのような施設があるのか, また欲しいのか, さらに地域のよさを聞いたり言ったりしている。	・ 地域のよさや課題などについて自分の考えや気持ちを伝え合ったり, 地域のよさや願いについて例を参考に語順を意識しながら書いたりしている。	・ 地域のよさなどについて, 伝え合おうとしている。

## 4 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ウ ゆっくりはっきりと話されれば, 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 短い話の概要を捉えることができるようにする。
話すこと [発表]	ウ 身近で簡単な事柄について, 伝えようとする内容を整理した上で, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について, 例文を参考に, 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

## 5 指導上の立場

## (1) 単元観

今後ますます進むであろうグローバル社会では, 国際共通語である英語の力が不可欠だと言われている。ただし, 社会で求められているグローバル人材=英語力がある, というわけでは決してない。グローバル人材として認められる条件の一つが, 地域の一員として自分の住む地域を知り, そのよさを発信していけることだと考える。本単元では, 児童にそのような力をぜひ身に付けて欲しい。

授業では, 初めに自分たちの住む地域にある施設, ない施設を知る。児童の住む新本では, ない施設の方が圧倒的に多いが, 国語科や総合的な学習の時間での学びとつなげることで, 他の地域にはなくて自分たちの地域だけにあるよさに目を向け, それを英語で表現する力を養う。また, 自分たちの地域のことを一方的に伝えて満足するのではなく, 大学生や留学生との交流を通して, それぞれの地域での営みについて考え, 認め合う心を育む。

また, 地域のよさをより多くの人に分かりやすく伝えるための工夫として, ポスター作りを行い, 書く活動にも必然性をもたせる。毎時間, 慣れ親しんだ表現を例文として示し, 自分のポスターに使えるような表現を選んでワークシートに書き写す。その際, 語と語の区切りを分かりやすく示したワークシートを使うことで, 語順を意識しながら書くことができるようにする。ポスターを使いながら発表するという言語活動を行うことで, 「聞く, 読む, 話す, 書く」という四つの技能を統合的に指導することができると考えている。

## (2) 児童観 (男子5名 女子3名 計8名)

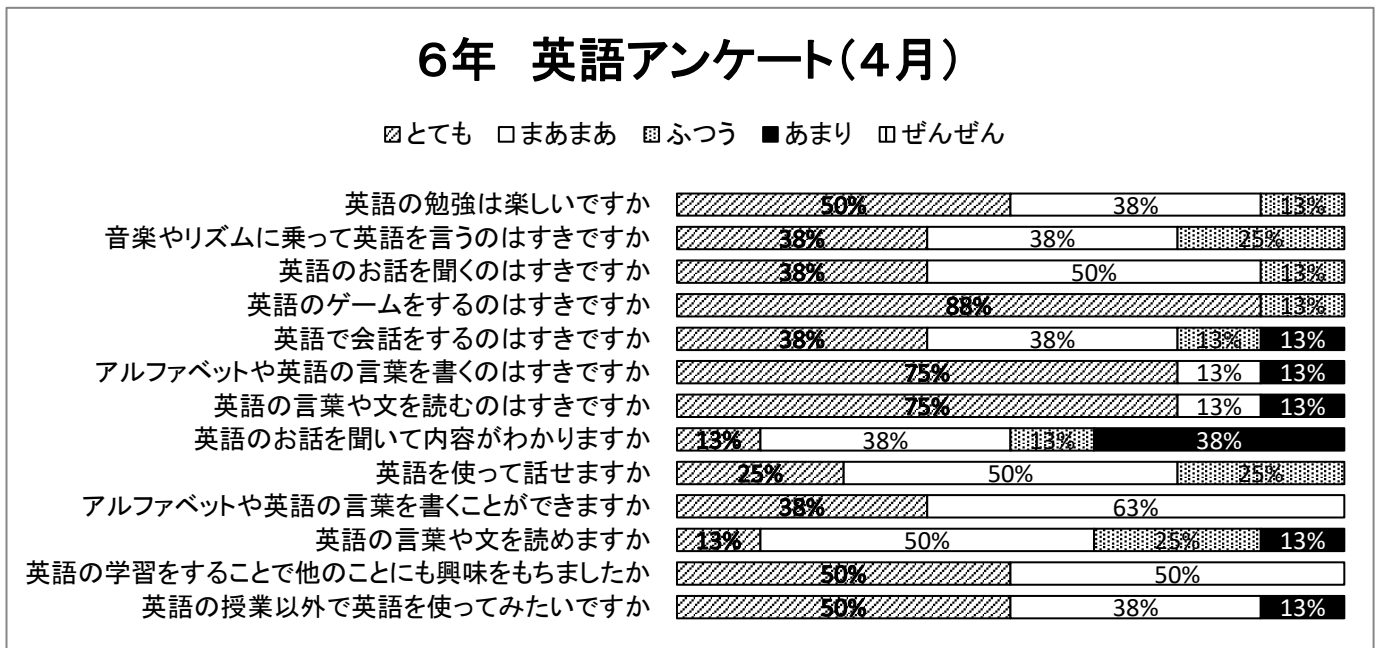
本学級の児童は学習課題をつかむと, 解決に向けて一生懸命取り組み, 自分の考えを積極的に発言しよ

うとする姿が見られる。これまでの外国語科の学習でも、劇作りや修学旅行でのインタビュー活動など、単元ゴールの設定が明確であれば、必然性をもって主体的に言語活動に取り組むことができた。英語アンケート図1で「英語の勉強は楽しいですか」の設問に肯定的な回答が多く、「英語の学習をすることで他のことにも興味をもちましたか」の設問には100%の児童が肯定的な回答を示している。一方で、「英語のお話を聞いて内容がわかりますか」という設問には半分の児童が否定的な回答をした。外国語科の学習に親しみ、そこから関心を広げ、様々な人と英語で関わることには慣れてきたが、やり取りが増えれば増えるほど、相手の英語を理解することの難しさも感じ始めている。相手の英語をすべて理解しようとするのではなく、知っている単語を聞き取ることや話の大体をつかむことを目標として、やり取りを楽しむことができるようにしたい。

本単元では、外国語科の学習に意欲的で、外国の人と話すことに興味をもっている児童に、「市内の先生方や留学生と地域のよさについて伝え合おう」と投げかける。児童は、これまで学習した国語科「ようこそ、私たちの町へ」でのガイドブック作りや、総合的な学習の時間での義民祭オペレッタ、赤米学習での学びとつなげながら、地域の何を英語で伝えたらよいか、思考を働かせるであろう。伝えたいことの情報を取捨選択しながら、友達や先生と話し合っって英語表現を創っていく過程を大切にして、児童の本当の思いを伝えられるようにしたい。

本時は単元のゴール場面である。それまでの学習を生かし、初めて出会う先生方や留学生に向けて、自信をもって伝えようとする姿、質問に対して既習表現で答えようとする姿、留学生が住む地域のことを知り、相互理解を深めようとする姿が見られるようにしたい。

※図1：今年度4月に6年生に対して行ったアンケート結果(n=8)



### (3) 研究主題との関わり

本校の研究主題「自分の思いや考えを伝え合い、地域や世界とつながろうとする児童の育成～本物で必然性のある外国語活動・外国語科を通して～」に迫るために、本校の考える仮説を基に、次のような工夫をする。

#### 仮説①について

単元や発達段階の特性を踏まえて言語活動を工夫することにより、児童は、自分の思いや考えをもち、それを伝え合おうとするであろう。

これまでの言語活動では、自分の思いや考えを膨らませすぎて、それを伝えるための英語表現が見つからず、活動が停滞する様子や教師の支援を多く要する場面が見られた。そのため、本単元では『We can! 2』のモデル文型に慣れ親しむことから始め、それを活用して自分の思いや考えを伝えるための表現を創る言語活動へとつなげていく。「地域のよさをたくさん伝えたいのに、英語では言えない。」と思うことがないように、教師とのやり取りの中で、言いたいことの中心が明確になり、シンプルで分かりやすい英語

表現にたどり着けるようにする。また、児童らと異なる地域に住む大学生や留学生に、地域のよさを伝えてもらうことで、聞くという言語活動にも関心を高められるようにする。その際、児童と同じ文型で伝えてもらうことで、話の大体をつかむ力を伸ばしたい。また、ポスターでの発表を単元のゴールにすることで、書く活動にも必然性をもたせる。

本時では、児童が自分たちの地域のよさについて自信をもって発表し、質問に対して既習表現で答えようとする姿や、留学生との交流に関心をもち、進んで相手のことを知ろうとする本物のやり取りが見られるようにしたい。

### 仮説②について

学びのつながりを意識して単元（新本オリジナル）を構成すれば、本物で必然性のある言語活動が生まれ、児童は主体的に学習に取り組むであろう。

本単元では、「自分の住んでいる地域のよさを伝え合おう。」を単元ゴールの言語活動として設定する。研究発表会で来られる先生方や、ボランティアの大学生、オーストラリアからの留学生に、新本のよさを英語で伝えようと児童に投げかける。児童はこれまでに、国語科「ようこそ、私たちの町へ」で、新本のよさを見つけ、ガイドブックにまとめる活動や、赤米交流事業として対馬市を訪れ、学校紹介を行う活動を体験している。また、新本地区区ならではの赤米行事や義民祭を通して、地域に受け継がれている伝統を継承する大切さを感じている。そのような児童は、本単元のゴールに向かって、これまでの学びとつながりながら、「新本のこんなところを伝えたい。」という思いを膨らませるであろう。さらに、自分の伝えたいことを伝えるだけではなく、他の地域に住む大学生や留学生と交流する場を設定することで、話すだけではなく聞くことへの必然性や、英語で伝えることの必然性を高める。言葉だけではなく、写真や文字を見せながら発表する方がより伝わるだろう、そしてそれをポスターにすれば、より多くの人に見てもらえるだろうという理由から、ポスター作りにも取り組み、書くことにも必然性をもたせる。

本時は、単元ゴールの場面である。単元で積み重ねてきた、聞いたり話したりする力を活用して、自信をもって発表したり進んでやり取りをしたりして、英語で伝え合う喜びや達成感を味わう姿を期待する。

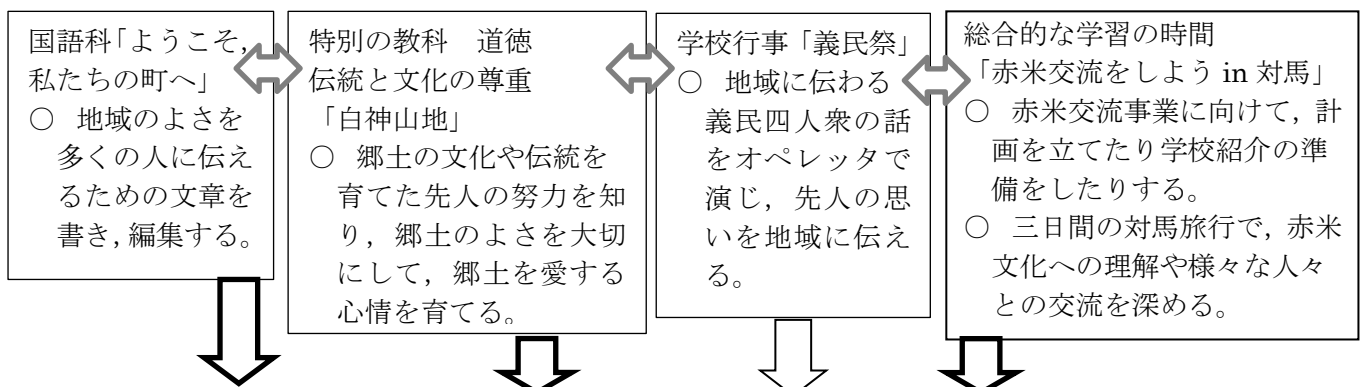
### 仮説③について

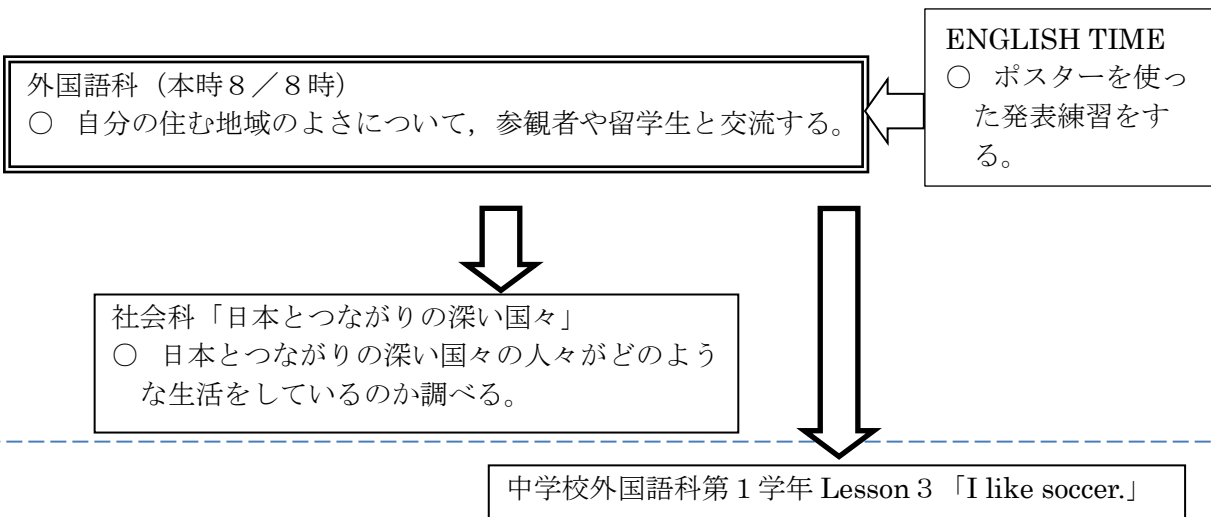
様々な人々と関わることによって、コミュニケーションの楽しさを味わい、より広い世界に目を向けるであろう。

少人数の集団で学校生活を送っている児童らが、より広い世界で自己を表現できるようになるためには、まず自分のことや自分が住む地域のことを知り、好きにならなくてはいけない。本校には、赤米や義民祭など、他の地域に伝えたくなる地域素材がある。本単元では、それらのよさを英語で表現することに必然性をもたせることで、地域のよさに改めて気付かせたい。また、自分たちと同じように他の地域にも特色があり、認め合おうとする心を養うため、大学生ボランティアとの交流を設定し、互いの地域について伝え合う。単元のゴールでは、オーストラリアからの留学生と交流することで、他国のよさにも気付き、視野を広げることができるようにする。

本時では、自分の住む地域について、参観者や留学生と交流する。振り返りで、この時間の学びや気持ちを発表し合い、新本のよさを発信することが、他の地域や世界とつながる契機となり、自分の世界を広げているということに気付けるようにしたい。

## 6 関連構想図





7 本時案 (第8時)

(1) 本時のねらい

- ・ 留学生や参観者に, 地域のよさについて自分の考えや気持ちを伝えようとする。
- ・ 留学生のことや留学生が住む地域のよさを, 知ろうとする。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援(●HRT, ▲小中連携)	学習評価
1 Greeting	●▲ 留学生を拍手で迎え, 英語で挨拶をした後, 留学生から気分や天気, 曜日, 日付を尋ねてもらい, お互いの気持ちがほぐれるようにする。	
2 Warm up 「Question Time」	● 既習表現を使って, 留学生への質問を促す。その際, 自分の情報を伝えてから質問をすることで, 相手に配慮しながら質問できるようにする。  A : My birthday is August 12th. When is your birthday? 留 : My birthday is ~. A : (繰り返す) I see. Thank you. B : I like sushi. What Japanese food do you like? 留 : I like~. B : Me too.	
3 Aim	▲ 留学生と児童が互いに分かりにくい表現を使っていたら, 言い換えたり日本語や英語で補足したりする。 ● 質問や反応が出にくいときは, これまでの既習表現を提示して, 英語でのやり取りを促す。  ● 留学生や参観者に, 新本のよさを伝えるポスターセッションをするという本時のめあてを確認する。 ● 発表するときに気を付けたいことを話し合うことで, ただ一方的に伝えるだけではなく, 聞き手との英語でのやり取りを楽しもうとする気持ちを引き出す。	
Aim 新本のよさを伝え, 英語での交流を楽しもう。		
4 Review	● 発表グループごとに集まり, 練習をしたり手順を確認し合ったりすることで, より自信をもって発表できるよ	

<p>5 Activity①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッション1回目</li> </ul>	<p>うにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 児童の発表練習を聞き、間違いやあいまいな表現に気付かせたり、発表に自信がない児童に助言をしたりする。</li> <li>● 三つのグループの発表の様子を見て回り、中間交流で取り上げる場面を見つける。</li> <li>▲ 困っている児童に助言を与え、自信をもって発表できるようにする。</li> </ul>	
<p>(例)「赤米グループ」</p> <p>We don't have a department store. But We have Akagome culture. We can experience Akagome culture. We have to connect Akagome culture to the future generation.</p>	<p>(例)「義民祭グループ」</p> <p>We don't have an amusement park. But We have Gimin festival. We can play operetta Giminsama. Giminsama is the story about our hero.</p>	<p>(例)「裏山グループ」</p> <p>We don't have a sport center. But we have Urayama. It's at the back our school. We can run there. We can be strong. Local people made the Urayama.</p>
<p>・ 中間交流</p> <p>・ ポスターセッション2・3回目</p> <p>6 Activity②</p> <p>7 Comment time</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 参観者には、児童が考えた質問シートを配っておき、その中から質問をしてもらうことで、児童とのやり取りができるようにする。</li> <li>● どのようなやり取りをしたかを発表し合うことで、他のグループのよさを認め合い、自分たちの発表にも生かそうとすることができる。</li> <li>▲ 児童が言いたかったけど言えなかった言葉を英語で発音し、児童の表現が増えるようにする。</li> <li>● 伝える相手が替わり、1回目と同じ発表を行うことで、より自信をもって発表できるようにする。</li> <li>●▲ 中間交流で得た表現を使っている児童を称揚したり、使うように促したりする。</li> <li>● 留学生に、自分の住む地域の紹介をしてもらい、誰もが自分の地域を大切に思うことや、より広い世界に目を向けることができるようにする。</li> <li>▲ 聞き取れた言葉を発表し合い、補足が必要な言葉を訳して伝えることで、児童が話の大体をつかむことができるようにする。</li> <li>● 日本語で質問や感想を伝えるように声をかけることで、留学生への関心を高められるようにする。</li> <li>▲ 児童の発言を英語で留学生に伝えることで、交流が深められるようにする。</li> <li>● 一人ずつ感想を発表し、新本とオーストラリアのそれぞれのよさを伝え合えたことへの気付きや、いろいろな人と交流できた喜びを共有することができるようにする。</li> <li>▲ 児童の感想を、留学生に伝えることで、交流が深められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 留学生や参観者に、地域のよさについて自分の考えや気持ちを伝えようとしている。 【思考力・判断力・表現力】 (発言・行動)</li> <li>◇ 留学生のことや留学生が住む地域のよさを、知ろうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・行動)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新本のよさを伝え、質問や感想をもらえてよかった。</li> <li>・ オーストラリアのことが分かり、留学生と交流できてうれしかった。</li> </ul>	

<p>8 Greeting</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Aim を振り返り，互いの地域のよさを伝え合い，認め合うことで，互いの世界が広げられたことを確認し，本時のまとめとする。</li> <li>▲ 児童のやり取りでよかったところや，中学校へつながる学びを伝える。</li> <li>●▲ 留学生や参観者と気持ちのよい挨拶をすることで，交流できた喜びや達成感を感じられるようにする。</li> </ul>	
-------------------	---	--

(3) 板書計画

